



造船所前から被災地に向けて黙とうをささげる藤木さん（左から3人目）

東日本大震災から1年

―根室市から被災地へ追悼―

皆さんを訪れ、サイレンに合わせ造船所の従業員らと

東日本大震災から1年を迎えた3月11日。根室市では、地震発生時刻の午後2時46分、同報無線によるサイレンが鳴り響き、市内各所で市民が、震災の犠牲となった人たちへ黙とうをささげました。

長谷川市長と波多市議会議長は、宮城県気仙沼市で被災し、花咲港で造船業を営み再出発をした藤木雅之



「地域防災ボランティア活動講座」でも黙とうが行われました

もに、被災地に向けて黙とうを行いました。

藤木さんは「根室に来てよかった。心の傷はまだ癒えていないが、被災地に家族を残してきている従業員たちのためにも早くふるさとの気仙沼で造船所を再開できるように頑張りたい。」と、1年を振り返りながらこれからの決意を話していました。

また、市とゆかりのある被災地13市町に、市長と市議会議長連名による激励のメッセージと、外来漁船誘致促進会からは外来船船主11人に対し激励のメッセージが送られました。

新病院の一部をご紹介

―病室モデルルーム一般公開3/11―

平成24年度の開院に向けて建設が進められている新市立根室病院の病室モデルルームが、朝日町の旧消防署車庫で一般公開され、多くの市民が会場を訪れました。

会場には、1床室と4床室のモデルルームと、新病院建設に採用されている免震装置のパネルや完成イメージ模型が展示されました。

訪れた市民は、担当職員から病室内に設置予定の設備について説明を受け、すっきりとしたベッド回りのスペースや、各ベッドサイドから自然光が入るつくりなどに感嘆の声が上がり、新病院の完成が待ち遠しいといった感想や期待の声が聞かれました。



地元企業による商品化を目指して

―サンマフライ企業向け発表会3/3―

市と東海大学海洋学部が進める共同研究で開発された「サンマフライ」の加工業者向け発表会が総合文化会館で開かれ、市内水産加工企業12社が参加しました。

サンマを丸ごと原料として使ったものと頭と内臓を取り除いたものの2種類のフライを試食した後、開発担当者から研究の経過などについて説明が行われ、企業側からは「頭と内臓を取り除いた方が食べやすいが、ぱさつき感がある。」などといった率直な感想が上げられました。

市では、発表会での意見等を参考に改善を行い、商品化の実現に向けた取り組みが進められます。



アイデア溢れる作品を展示

―児童会館作品展3/15/7―

市教委が主催し、例年開催されている西浜児童会館をはじめ、花咲、北斗、成央の各放課後教室に通う子どもたちが、この1年間に作りあげた作品を各施設ごとに展示する作品展が、総合文化会館多目的ホールで開かれ、866点に及ぶ子どもたちの力作が並びました。

会場には、プリンのカップを使ったひな人形や松ぼっくりを細工したスノードーム、ペットボトルをリサイクルして作った物入れなど、アイデア溢れる作品と季節の行事ごとに撮影した子どもたちの写真などが会場狭しと並べられ、訪れた市民の目を楽しませていました。

